



交通安全教育DVD

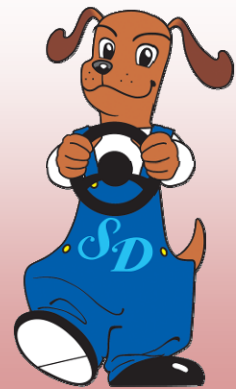
# シニアドライバーの 安全運転

指導ガイド

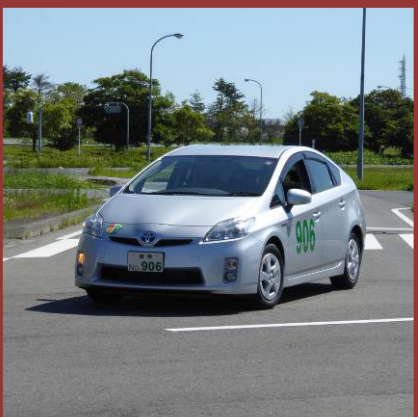


安全運転をつくろう。

自動車安全運転センター



SDワンダくん



## はじめに

自動車安全運転センターでは、交通安全に関する様々な取り組みを行っています。その活動の一環として、交通安全教育DVDを制作しております。

今回は「シニアドライバーの安全運転」と題して、高齢運転者に向けた交通安全教育DVDを制作しました。

内容は、高齢運転者の事故の特徴（高齢運転者に多い事故、高齢になると増加する事故）に着目し、「出会い頭事故」、「追突事故」、「右左折時の事故」の3つを取り上げ、その防止策を解説しました。

本DVDは、個人での利用はもちろん、高齢者が集まる団体（老人クラブ、シルバー人材センター等）における交通安全教育の場や、高齢者講習同等教育等で活用いただくことを念頭に置いて制作しました。

集合の交通安全教育における視聴覚教材として利用していただくほか、分割して視聴しやすいように 3～6 分前後のチャプターに分けています。全編を連続して視聴するだけでなく、10～15 分程度のブロックに分けて視聴する等、様々な交通安全教育での利用が可能です。

この「指導ガイド」は、交通安全教育の指導者が、より効果的に安全運転教育を行うための参考資料として役立つように制作しました。

DVD映像と共に、この指導ガイドを活用していただければ幸いです。

## 1. 視聴覚教育の事前資料準備

### (1) 事前準備の必要性

視聴覚教材は、そのまま視聴者に視聴させれば交通安全教育の効果が発揮されるというものではありません。様々な交通安全教育の手法がありますが、視聴覚教材の最大のメリットは内容を映像でわかりやすく表現して伝えることができることです。しかし、その一方で、視聴者が理解しているかなどに関係なく映像が進んでいく一方通行的な教育である短所も持っています。

この短所を補うのが安全教育指導者の役割です。単に視聴覚教材を見せるのではなく、注意すべき点を補足、強調するなどの工夫が必要です。また、視聴覚教材を補う最新の情報を用意して補足説明を行うことも大切です。

視聴覚教材を使用した教育は、視聴者が消極的になる場合もあるため、視聴者を積極的に参加させる状態を作り出す工夫も必要です。視聴後の討議、感想文等の時間を設けるなども有効です。

### (2) 関連統計資料等の準備

視聴覚教材には、最新の情報がありませんので、必要に応じて関連の情報を集め、DVD視聴前後に最新の状況を説明してください。

交通安全のための調査研究資料や交通事故に関連した統計情報等は、以下のホームページが代表的なものです。これらのホームページで事前に関連情報を収集しておくことも大切です。

交通安全に関する調査研究報告書、統計資料を掲載しているホームページ	
警察庁（統計）	<a href="http://www.npa.go.jp/toukei/index.htm#koutsuu">http://www.npa.go.jp/toukei/index.htm#koutsuu</a>
自動車安全運転センター （調査研究ライブラリー）	<a href="http://www.jsdc.or.jp/library/index.html">http://www.jsdc.or.jp/library/index.html</a>
国土交通省 （自動車総合安全情報）	<a href="http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/index.html">http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/index.html</a>
公益財団法人交通事故 総合分析センター	<a href="http://www.itarda.or.jp/">http://www.itarda.or.jp/</a>
同上（研究報告書）	<a href="http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=2">http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=2</a>
同上（交通統計）	<a href="http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=4">http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=4</a>

## 2. チャプターごとの指導ポイント

本 DVD は 7 つのチャプターに分かれています。ここでは、それぞれのチャプターの指導ポイントを紹介しておきます。

### チャプター1 (2 分 26 秒)

#### オープニング～シニアドライバーの事故の特徴

##### (1) オープニング

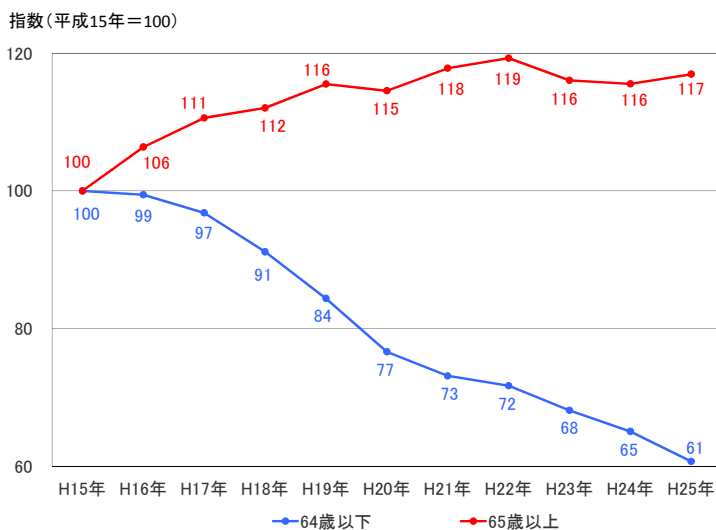
このDVDのテーマは、「シニアドライバーの安全運転」です。

##### (2) シニアドライバーの事故の特徴

シニアドライバーの事故の特徴を3つのグラフで示しています。

最初のグラフは、平成 15 年の事故件数を 100 とし、平成 25 年までの 10 年間の事故件数の推移を 64 歳以下と 65 歳以上に分けて示しています。

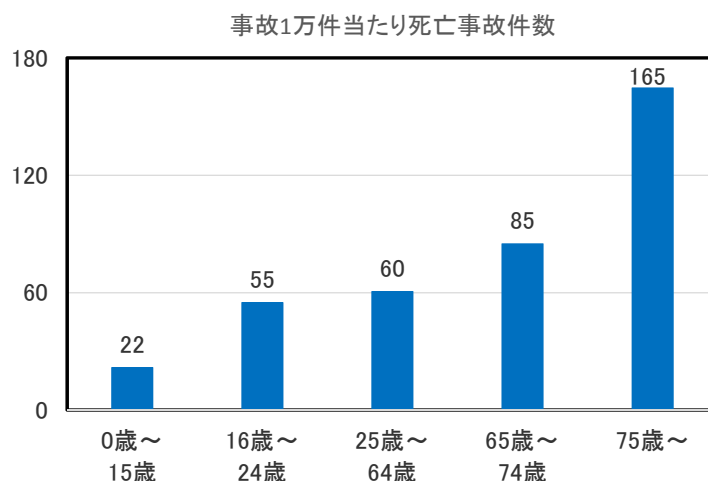
64 歳以下については過去 10 年間で約 40%減少していますが、65 歳以上の事故件数は約 17%増加していることがわかります。



資料:交通統計(公益財団法人 交通事故総合分析センター)

次のグラフは、事故1万件あたりの死亡事故件数です。

年齢が高くなるにつれ死亡事故件数が多くなる傾向があり、シニアドライバーが一旦事故を起こすと死亡事故などの重大事故につながる可能性が高いことを示しています。

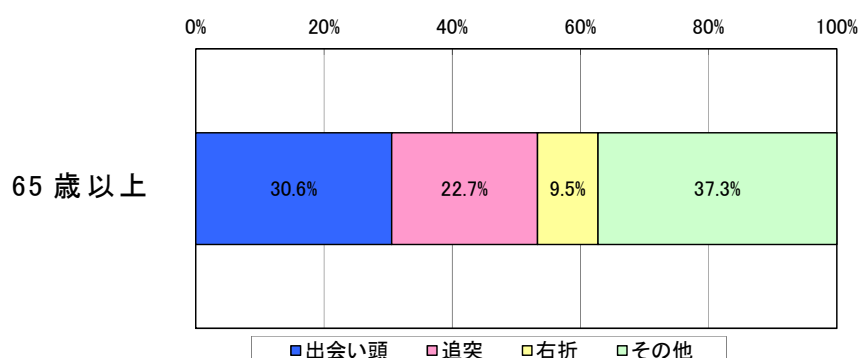


資料：公益財団法人 交通事故総合分析センター

3つめのグラフは65歳以上に多い事故を示しています。

65歳以上に多い事故「**出会い頭事故**」、「**追突事故**」、「**右折時の事故**」で、この3種類の事故で、全体の約3分の2を占めています。

※ 映像には示しておりませんが、この3つの事故が多いのは64歳以下も同様です。



資料：交通統計（公益財団法人 交通事故総合分析センター）

その他、高齢になるにつれ増加する事故は「**出会い頭事故**」を筆頭に、「**右左折時の事故**」、「**車両単独事故**」、「**後退時の事故**」です。

このようなシニアドライバーの事故の特徴は、若い頃に比べ、視力が低下したり、反応時間が遅くなるなど、加齢による身体機能の変化と強く関係しています。

今回はシニアドライバーの身体機能の変化や事故の特徴を踏まえ、

**「出会い頭」**

**「追突」**

**「右左折時」**

の事故に着目し、その防止策を解説します。

## CHAPTER 2 (6分23秒)

### (1) 出会い頭事故を防止するために

#### ■ ■ 一時停止の重要性 ■ ■

#### (1) ドライブレコーダー映像の解説

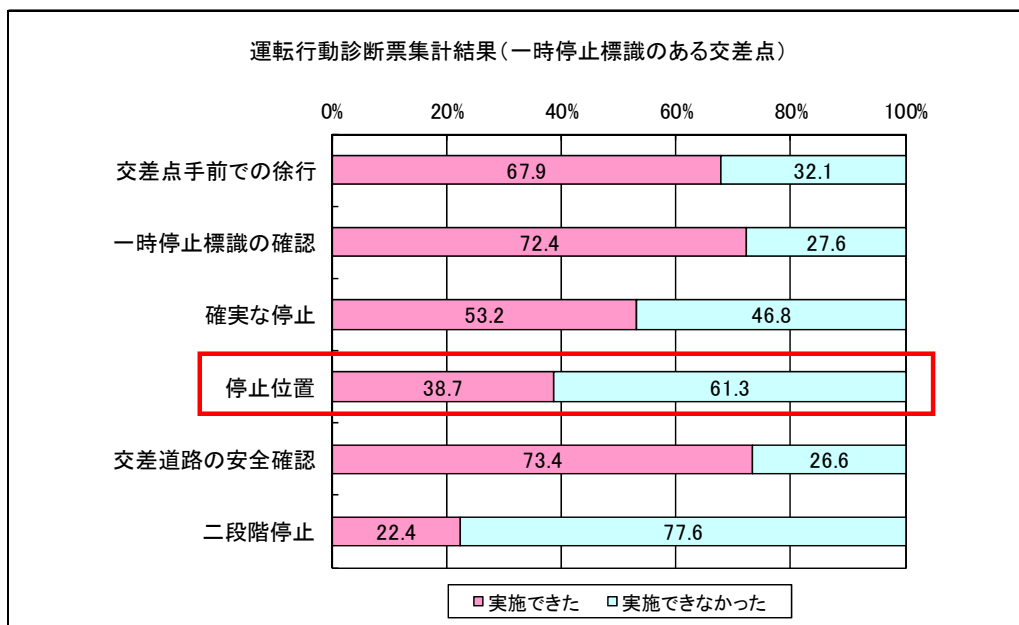
直線道路からT字路を左折しようとして、停止線で止まらず、十分な徐行運転もせず、T字路に進入して、左から来た自転車と接触しました。

運転手は停止線手前から速度を落としながら運転していますが、停止線では止まらず、時速20キロを超える速度で交差点に進入しています。右側から来る車ばかりに気を取られて、左から来る自転車と接触しました。



#### (2) 運転行動診断の結果分析の解説

70歳以上の方は免許更新時に高齢者講習を受講しますが、自動車安全運転センターが高齢者講習結果を分析したところ、「一時停止位置」で正しく止まれた方は約4割でした。



資料：高齢運転者に関する調査研究Ⅲ(自動車安全運転センター)

このことは、6割の高齢運転者が停止線手前で正しく停止していないことを意味します。

また、高齢者講習の現場指導員の多くが、高齢運転者の特徴として、自分は停止しているつもりだが、客観的にみると完全に停止していない人が多いことを指摘しています。

視聴者に、自分は大丈夫と他人事のように思わず、謙虚な気持ちで一時停止の重要性についての解説に耳を傾けるよう指導して下さい。

### (3) 事故防止のための注意点

一時停止は、自分が周囲の安全確認を行うことが第1の目的ですが、この他に、交差点付近の他の車両や、二輪車、歩行者、自転車などに、自分の存在を知らせると言う重要な役割があることを伝えて下さい。

自分だけが安全を確認できれば良いのではなく、周囲に自身の存在を知らせることで、相手も危険に備えることができるということを理解させて下さい。



### (4) 正しい一時停止のポイント

一時停止の手順について、順を追って説明して下さい。

- ① 停止線手前で完全に停止したことを確認します。停止したと思ったら、
- ② 念のためブレーキをもう一度しっかり踏んで下さい。
- ③ 停止した状態で左右の安全確認を必ず行います。
- ④ その後、状況に応じた速度で走行しながら左右の安全を確認して交差点に進入します。

こうすることで、同じ交差点に近づいている自転車や歩行者は道路を横断する手前で車の存在に気づき、必要な対応をとることができます。

※停止線でしっかり停止したことで安心してしまい、左右の安全確認を忘れてしまうと本末転倒です。左右の安全確認を忘れず実行するよう指導して下さい。

特に見通しの悪い交差点では、停止線で確実に停止し安全確認をした後、何回か停止・徐行を繰り返し、さらに安全を確認してから交差点に進入するよう指導して下さい。

※普段あまり意識せず一時停止を行っている視聴者には、一度意識して正しい一時停止を行ってみよう促して下さい。そして、安全運転に大切なことは、正しい一時停止を習慣化させることであることを伝えて下さい。



## (5) その他の注意点

- 停止はするものの、安全確認をしていない、いわゆる漫然一時停止や、交差点の見落としに注意が必要です。
- 自分が通行している道路の方が、交差する道路より優先の場合、つまり交差道路側が一時停止の交差点であっても、明らかな優先道路の場合を除いて、徐行し、安全を確認して通過するとより安全です。
- 信号のない交差点では、**相手が「譲ってくれるだろう」ではなく、相手に譲ることが大切です。**
- 一時停止をしっかりとっていないのは何もシニアドライバーの皆さんに限ったことではありませんが、この危険な運転習慣を、シニアドライバーの皆さんが率先して改め、若いドライバーに安全運転の模範を示すよう伝えて下さい。

## (6) バイクを運転する場合、徒歩や自転車で道路を横断する場合

- バイクを運転する場合も、自動車と同様の注意が必要だということを指導して下さい。
- 自転車や徒歩で道路を横断する場合は、一時停止をしっかりとせず安全確認が甘い運転者が多いことに注意し、自身の安全確認を確実にするよう指導して下さい。

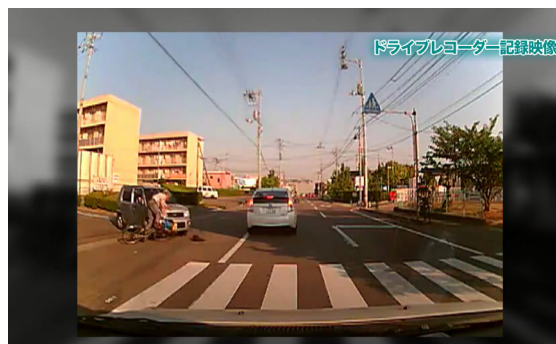
### CHAPTER 3 (2分 58秒)

#### (1) 出会い頭事故を防止するために

#### ■■ 駐車場出口における一時停止の重要性 ■■

### (1) ドライブレコーダー映像の解説

車両が、駐車場から歩道に出るとき、歩道の手前で一時停止を怠った結果、自転車を運転する高齢者に接触してしまいました。



### (2) 事故防止のための注意点

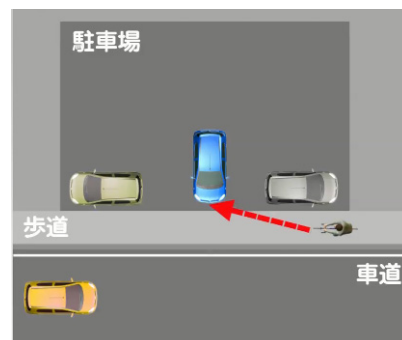
ドライブレコーダーの映像は右から来る自転車と接触した事故でしたが、一般に多いのは**右から来る車に気を取られて、左から来る自転車や歩行者を見落とすケース**です。

駐車場から出るとき、右側ばかりを注意して、左側の安全確認が不十分になりがちです。

**道路に出るときには、相手に自分の存在を気づかせるため**にも、歩道の手前で一時停止するよう指導して下さい。



見通しの悪い場所では、歩道の手前で一時停止しても、運転席からは左右の状況を確認できないため停止は無駄と考えている運転者が多いようです。しかし、相手に自分の存在を知らせるためには、重要なことです。



### (3)正しい一時停止の手順

駐車場出口における一時停止の手順について、順を追って説明して下さい。

- ① 歩道の手前で必ず停止します。
- ② 自分の車の存在を知ってもらってから、ゆっくりと前進をして、更に停止します。
- ③ 少し視界が開けたら、今度は自分が左右の安全を確認します。

車道を走る車だけでなく、左右の歩道上の人や自転車への注意が大切であることを伝えて下さい。



お互いに道を譲ってくれると思い、発進すると相手も発進して事故になるケースがあります。このような時は、自動車側が道を譲るよう指導して下さい。

## CHAPTER 4 (3分06秒)

### (2)追突事故を防止するために

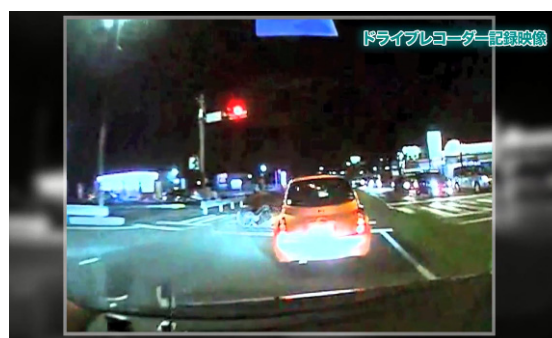
#### ■■ 車間距離を空けることの重要性 ■■

追突事故は若年層に多く、高齢になるにつれ減少傾向ですが、それでもシニアドライバーの事故の2割強を占め、出会い頭事故に続き2番目に多い事故ということを伝えて下さい。

### (1)ドライブレコーダー映像の解説

前を走る車が、自転車の横断に気づき急ブレーキをかけ、追突しそうになりました。

車間距離が短いと、前の車が急ブレーキをかけた時に追突してしまう恐れがあります。



## (2) 事故防止のための注意点

車間距離を十分に保つと、前方の視界が確保され、周囲の状況を確認しやすくなることを伝えて下さい。

一方、車間距離が短いと、視界の多くを、前の車が遮ってしまい危険です。車間距離を充分にとることで、前方の視界が確保され、道路標識や信号等を確認しやすくなります。



## (3) ドライブレコーダー映像の解説

車は右折待ちをしています。前の車が動き出したので、右折しようと前進しましたが、前の車が急停止したため追突してしまいました。

信号の変わり目に車間を詰めて先を急ぐと前の車に追突してしまう危険性が高くなります。



## (4) 追突事故防止のためのポイント

追突事故を防止するためには、運転中に考え事をしたり、同乗者との会話に夢中になったり、わき見運転をせず、運転に集中することが大切です。

※体調不良や疲労は集中力を欠く原因の1つです。運転前に体調が良くないと感じたら無理に運転をしないように、また、長距離の運転をする時は、若い頃よりこまめに休憩(1時間に1回を目途に)を取るよう指導して下さい。

加齢に伴い、視力の衰えや反応時間が遅くなるなどの現象が現れてきます。**身体機能の衰えは余裕を持った運転でカバーするよう指導して下さい。**

## (5) バイクを運転する場合

○バイクを運転する場合も自動車と同様に、車間距離を充分保つよう指導して下さい。

## <参考>車間距離の目安

DVDでは紹介していませんが、車間距離の目安として、「車間時間 2 秒以上」ということが言われています。

### ※車間時間「2 秒」の測り方

例えば、前を走る車が「電柱」を通過したとして、その通過の瞬間を「0」とします。そして、自分の車が同じ「電柱」を通過するまでに「2 秒以上」数えることができることができれば車間時間が 2 秒以上あることとなります。ただし、「1、2(イチ、ニ)」と数えると実際の 2 秒間より短い場合があるため、数えるときは「0、1、0、2(ゼロ、イチ、ゼロ、ニ)」と数えましょう。

車間時間 2 秒は時速 20kmで走行した場合は約 11m、時速 30kmの場合は17m、時速 40kmの場合は 22mの車間距離に相当します。(自分が運転する車も、先行車も同じ速度の場合)

※なお、近年国内外では、車間時間3秒以上や4秒以上を推奨する団体も増えています。また、「交通の方法に関する教則」には、車間距離は「天候、路面やタイヤの状態、荷物の重さなどを考えに入れ、前の車が急に止まっても、これに追突しないような安全な車間距離をとらなければなりません」とされていますが、ここでは分かりやすいように車間時間を説明しています。

## CHAPTER 5 (4 分 54 秒)

### (3)右左折時の事故を防止するために

#### ■■ ①右折時の事故防止 ■■

右折時の事故はシニアドライバーだけでなく、全ての年齢層に多い事故です。しかし、**右折時の事故は、加齢に伴い増加傾向**にあることを伝えて下さい。

#### (1)ドライブレコーダー映像の解説

車は、交差点を右折しようとしています。右折先道路の横断歩道を横断する歩行者に気付かず、急停止しました。交差点を右折しようとする時、ドライバーは右折先の右側ばかりに集中し、左側から来る歩行者に気づくのが遅くなりました。



## (2) 事故防止のための注意点

右折時の右側は見にくいいため意識して確認することが大切です。

ただし、右側のみに意識が集中してしまうと、左側から来る歩行者や自転車への注意が疎かになりがちです。速度を十分に落とし、左右バランス良く安全確認をするよう指導して下さい。



## (3) 徒歩や自転車で横断歩道を渡る場合

自動車の右側には死角があります。徒歩や自転車で横断歩道を渡る際は、右折してくる自動車の死角特性に配慮するよう指導して下さい。

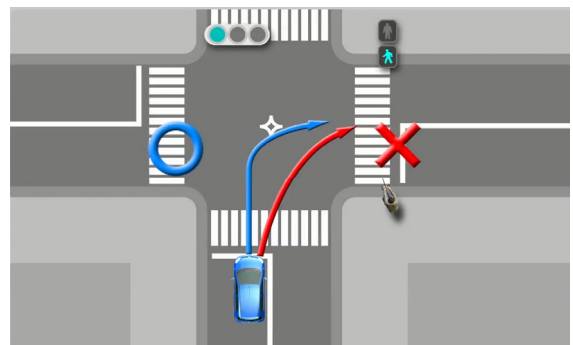
## (4) 右折小回りの危険

信号の替わり際などに無理な右折は禁物です。無理に右折をしようとするとう右折小回りになりがちです。



このDVDでは、右折小回りの開始位置では交差点全体の安全を確認しにくいこと、また、横断歩道に進入しようとしている自転車等にとって右折小回り開始位置は確認しにくいこと、速度が速くなりがちなことなどを指摘しています。

右折時には、ゆっくりと、できれば交差点中央手前で停止して交差点全体の安全を確認してから右折を開始するよう指導してください。



右折小回りは、先急ぎ傾向の強い運転者に多く、また、なかなか自覚しにくい右折の癖です。同乗者がいるときに、相互にチェックしてもらうよう指導すると効果的です。



## (5)その他の注意点

- 信号の変わり目は、自動車だけでなく、歩行者や自転車も急いで渡ろうとし、事故が多いので、特に注意が必要です。
- 信号を無視して横断する歩行者・自転車の存在にも注意が必要です。
- 状況(後続車が渋滞等)にもよりますが、信号機に右矢印が点灯する交差点では、右矢印が点灯するのを待ってから右折するとより安全な右折が可能です。

## CHAPTER 6 (2分 28秒)

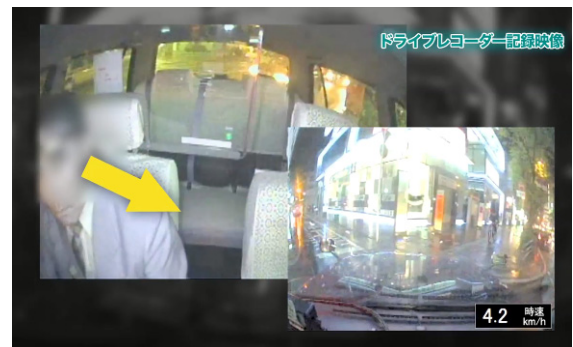
### (3)右左折時の事故を防止するために

#### ■■ ②左折時の事故防止 ■■

左折時の事故についても、右折時の事故と同様、**加齢に伴い増加傾向**だということを伝えて下さい。

### (1)ドライブレコーダー映像の解説

この車は、左折しようとしています。左折先道路の右側から来た自転車と接触してしまいました。交差点を左折しようとする時、ドライバーは左折先の左側ばかりに集中し、右側から来る自転車に気が付かなかったことがわかります。



### (2)事故防止のための注意点

左折時の左側はピラーなどで死角が生じるため意識して確認することが重要です。

長年の習慣から、左側の安全確認ばかりに気を取られ、左折先道路を右側より横断する歩行者・自転車を見落としてしまうことがあります。

右折時の安全確認と同様に左折時も**左右バランス良く注意する**よう指導して下さい。



DVDでは紹介していませんが、左側に車を寄せずに左折する自動車を多く見かけますが、左側巻き込み事故の原因になりますので注意するように指導してください。

### (3) 自転車やバイクを運転する場合

自動車の左側は、自動車にとって死角となりやすい場所です。バイクや自転車を運転する場合は、左折する自動車の左側に入らないよう指導して下さい。



### (4) 右左折時の注意点(方向指示器を早めに点灯)

方向指示器を早めに点灯させ、後続する車両や、バイク及び自転車の合図をすることが重要です。合図を忘れていたり、出すタイミングが遅くならないよう指導して下さい。

## CHAPTER 7 (3分 22秒)

### その他の注意点～エンディング

### (1) 健康管理の重要性

#### ○眼疾患に注意

緑内障などの眼の病気により、視野が欠けたり狭くなったりすると、交通事故の危険性はますます高まります。40歳以上の20人に1人、70歳台の10人に1人は緑内障とされており、緑内障にかかっている人の比率は年齢と共に増加していきます。

視野がせまくなったり欠けたりする症状は自覚することが難しく、事故を起こして初めて気づくケースもありますので、定期的に眼科検診を受診するよう伝えて下さい。

#### ○認知症について

車両のいたるところにキズやへこみが目立ってきたら、空間認識力の衰えが心配されます。認知症の可能性もありますので、病院で総合的な検査を受診するよう指導して下さい。

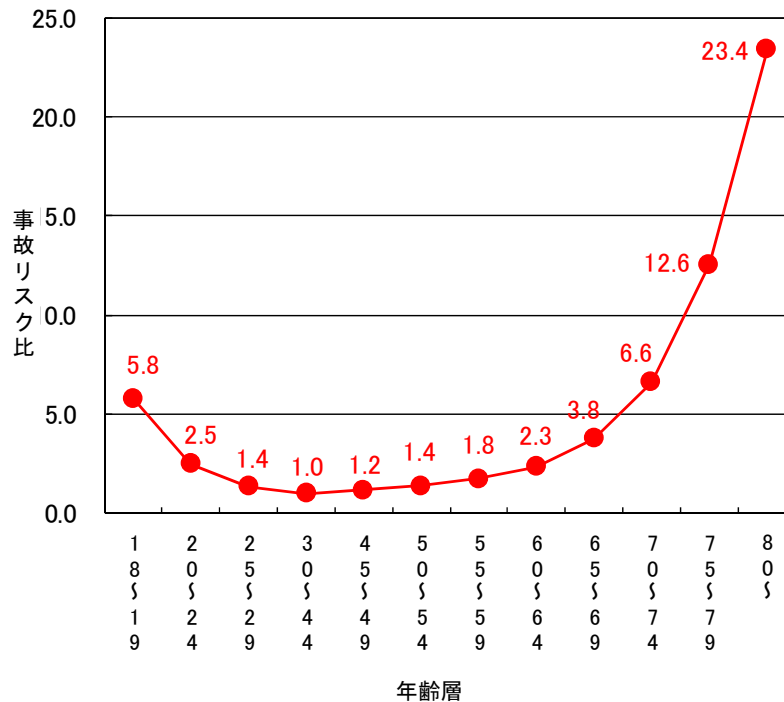
### (2) その他

65歳以上になるとアクセルとブレーキの踏み間違いのリスクが高くなるという研究結果もあります。

DVDでは紹介していませんが、近年、「先進安全自動車(ASV)技術」という、先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した車両が普及していることを伝えて下さい。



30-44歳の事故リスクを1とした場合の「ブレーキとアクセルの踏み間違い」の事故リスク比(人身事故)



資料: 矢野ほか, 高齢運転者の運転操作誤りによる事故の分析, (一社)交通科学研究会平成26年度学術研究発表会講演論文集 P27-28

### (3) 身体機能の低下は余裕を持った運転でカバー

若い頃は事故を1回も起こさない優良ドライバーだった人が、高齢になり、突然、死亡事故などの重大事故を引き起こすケースがあるそうです。

誰しも年齢を重ねると身体機能が低下してくるのはごく当たり前のことですので、速度や車間距離に余裕を持った運転をするとともに、こまめに休憩をとるよう指導して下さい。

### (4) エンディング

エンディングで伝えたいことは、運転経験が長いほど、運転技量は上がるものの、手を抜ける場所では極力手を抜くようになり、運転が我流になってしまうということ(不安全行動の学習)、その我流の運転習慣をこの機会に一度見直しませんかということの2点です。

また、運転習慣の見直しには、他人の意見を聞く耳を持つ必要があります。自分の運転にとやかく言われて、腹を立ててしまうと、いつしか誰も指摘しなくなってしまいます。他人の指摘を謙虚な気持ちで聞くことが大切だということを伝えて下さい。

このDVDを視聴したことで、自分の運転習慣を見直すきっかけとなれば幸いです。

### 3. 指導者が行うまとめのポイント

このDVDのエンディングは、DVDの要約(まとめ)ではなく、視聴者が、今後心掛けていただきたい内容を中心としました。したがって、DVDの内容のまとめは、指導者が行って頂きたいと考えています。

効果的な交通安全教育には、各団体の交通安全指導者が、状況に応じて、まとめをしていただくのが重要と思われませんが、一般的には、次のような要点をまとめとすることが考えられます。

#### (1) 全体的な指導ポイント

このDVDでは「出会い頭事故」、「追突事故」、「右左折時の事故」の3つの事故の防止策を取り上げました。

いずれも基礎的な内容ばかりですので、**視聴対象の高齢者に、自分に関係ないと思わせないことが最も重要なポイント**です。今まで事故を起こさなかったから、これからも起こさないという保証はどこにもないということを冒頭で強調して下さい。

また、DVDで紹介している事故やヒヤリ・ハット体験の有無を、事前に視聴者から確認しておき、視聴終了後に、DVDから学んだ安全運転の方法やコツについて、問いかけやグループ討議を行うと効果的です。

このDVDの視聴時間は全編通して 25 分 37 秒です。全編を一度に視聴すると、人によっては長いと感じる方もいるかもしれませんので、退屈に感じさせないような工夫が必要です。

例えば、チャプター毎に視聴させ、その都度、指導者による簡単なまとめを挿入したり、前後半に区切って視聴させ、中間と最後に指導者によるまとめを挟む等の方法が有効と考えられます。

教育項目(タイトル)	チャプター毎の視聴時間	2分割しての視聴時間
●シニアドライバーの事故の特徴		11分47秒
Chapter 1 シニアドライバーの事故の特徴	2分26秒	
●出会い頭事故を防止するために		13分50秒
Chapter 2 一時停止の重要性	6分23秒	
Chapter 3 駐車場出口における一時停止の重要性	2分58秒	
●追突事故を防止するために		25分37秒
Chapter 4 車間距離を空けることの重要性	3分06秒	
●右左折時の事故を防止するために		
Chapter 5 右折時の事故防止	4分54秒	
Chapter 6 左折時の事故防止	2分28秒	
●その他の注意点		
Chapter 7 その他の注意点	3分22秒	
全映像時間		

## **(2)「シニアドライバーの事故の特徴」のポイント**

要約すると、次の4点が指導のポイントです。

- ・ 65歳以上の事故件数は増加傾向である。
- ・ 死亡事故件数は年齢が高くなるにつれ増加傾向である。シニアドライバーが一旦事故を起こすと死亡事故などの重大事故につながる可能性が高い。
- ・ 65歳以上に多い事故は「出会い頭事故」、「追突事故」、「右折時の事故」で、この3種類の事故で、全体の約3分の2を占める。
- ・ 高齢になるにつれ増加する事故は「出会い頭事故」、「右左折時の事故」、「車両単独事故」、「後退時の事故」である。

## **(3)「出会い頭の事故を防止するために ①一時停止の重要性」のポイント**

要約すると、次の2点が指導のポイントです。

- ・ 一時停止には、自分が周囲の安全確認を行うことだけでなく、周囲に自分の存在を知らせると言う重要な役割がある。
- ・ 一時停止は、停止線手前で完全に停止して、左右の安全確認を忘れずに実施することが重要である。

## **(4)「出会い頭の事故を防止するために ②駐車場出口における一時停止の重要性」のポイント**

要約すると、次の3点が指導のポイントです。

- ・ 駐車場から道路に出るときには、相手に自分の存在を気づかせるために、歩道の手前で必ず停止する。
- ・ 車道を走る車だけでなく、左右の歩道上の人や自転車への注意が大切である。
- ・ お互いに道を譲ってくれると思いき、発進すると相手も発進して事故になるケースがあるが、その時は、自動車側が道を譲ること。

## **(5)「追突事故を防止するために 車間距離を空けることの重要性」のポイント**

要約すると、次の3点が指導のポイントです。

- ・ 車間距離を十分に保つと、前方の視界が確保され、周囲の状況を確認しやすくなる。
- ・ 追突事故を防止するためには、運転中に考え事をしたり、同乗者との会話に夢中になったり、わき見運転をせず、運転に集中することが大切である。
- ・ 体調不良や疲労は集中力を欠く原因の1つである。運転前に体調が良くないと感じたら無理に運転をしないよう、また、長距離運転時は、若い頃よりこまめに休憩を取るようになる。

## **(6)「右左折時の事故を防止するために ①右折時の事故防止」のポイント**

要約すると、次の3点が指導のポイントです。

- 右折時の右側は見にくいいため意識して確認することが大切である。
- ただし、右側のみに意識を集中するのではなく、速度を十分に落とし、左右バランス良く安全確認をすることが重要である。
- 信号の替わり際などに無理に右折をしようとすると、右折小回りになり危険である。右折小回りは交差点全体の安全確認がしにくく、また速度が出やすいという危険がある。

## **(7)「右左折時の事故を防止するために ②左折時の事故防止」のポイント**

要約すると、次の3点が指導のポイントです。

- 左折時の左側はピラーなどで死角が生じるため意識して確認することが重要である。
- 右折時の安全確認と同様に、左折時も左右バランス良く注意することが重要である。
- 方向指示器を早めに点灯させ、後続する車両や、バイク及び自転車に合図をすること。合図を忘れてたり、出すタイミングが遅くならないよう注意する。

## **(8)「その他の注意点」のポイント**

要約すると、次の2点が指導のポイントです。

- 視野がせまくなったり欠けたりする症状は自覚することが難しく、事故を起こして初めて気づくケースもあるので、定期的に眼科検診を受診する。
- 車両のいたるところにキズやへこみが目立ってきたら、認知症の可能性もあるので、病院で総合的な検査を受診する。

## おわりに

ここで示した指導ガイドは、あくまでも参考例として示したものです。みなさんの団体の状況によって指導のポイントは変わってきます。まず、視聴者が所属する団体の事故の現状や交通安全上の問題を把握し、どのような点を強調して指導するかを明確にすべきです。指導者が団体の状況とDVDの内容を重ね合わせて指導することが、より有効な交通安全教育とするために重要なことです。

本DVDを利用して、指導者の皆さんが効果的な交通安全教育を実践していただければ幸いです。



安全運転をつくろう。

# 自動車安全運転センター

<http://www.jsdc.or.jp/>

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番6号

電話 03-3264-8600（代表） Fax 03-3264-8610



SDワンダくん

※この著作物の著作権は、自動車安全運転センターに属します。